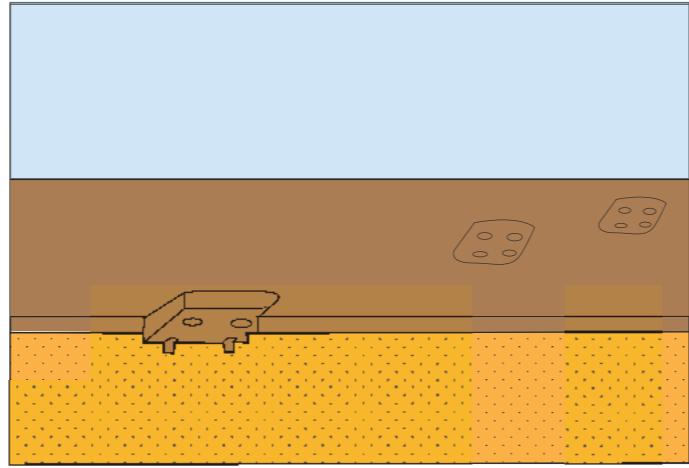


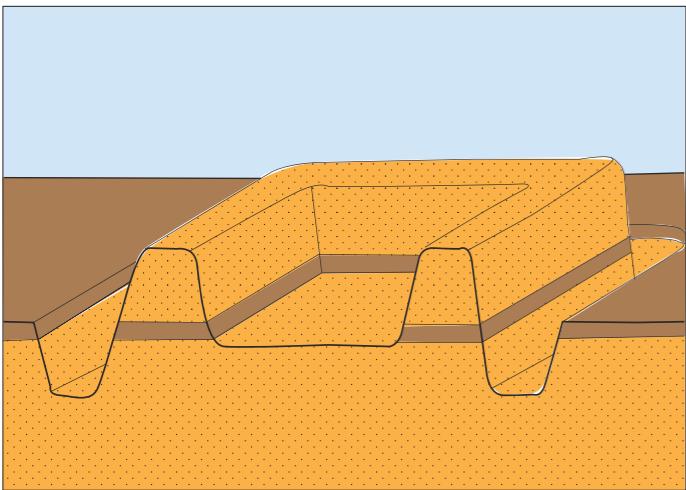
①古墳時代中期（約1600年前）に集落（竪穴住居）、平安時代末～鎌倉時代（約800年前）に集落（掘立柱建物・墓）がつくれました。

※平成25年度調査でみつかっています。



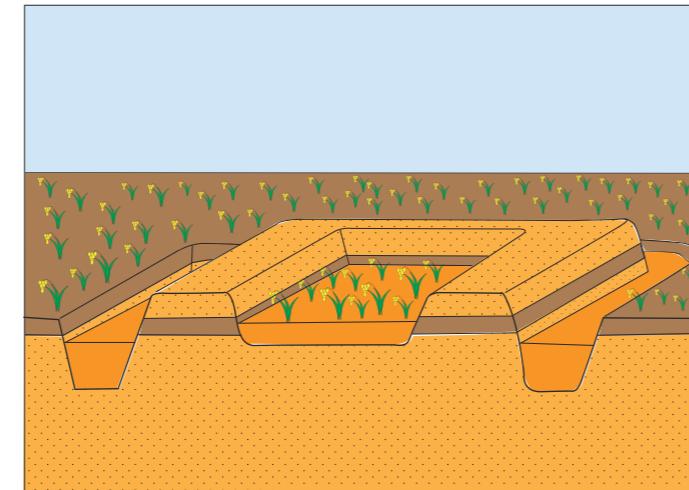
②集落が廃絶し、埋没しました（鎌倉時代以降：約800年前～）。

※集落が廃絶したのち、古墳時代～鎌倉時代にかけての遺物を含む層で遺構が覆われたことがわかっています。



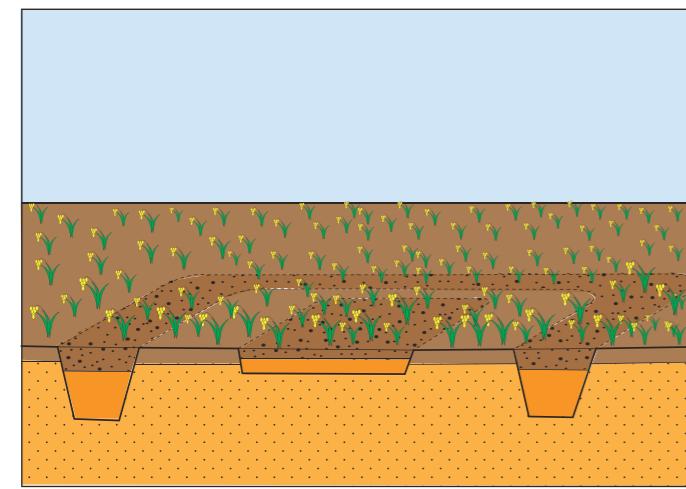
③古墳時代～鎌倉時代（約800年前）の集落が埋没した土の上に、城館が築かれました（約550年前）。

※堀と郭部分の掘削土で、土塁を築いたと推定されます。土塁の基盤には古墳時代から鎌倉時代の遺物を含む層が残っていることから、当時の生活面から土塁を築いていることがわかりました。



④城館が取り壊され（約500年前）、土塁の一部が取り壊されました。が、曲輪部分と堀の外側は水田として利用していました。

※調査区の壁面の土層観察から土塁の盛土層が残存していたことがわかりました。



⑤水田を大きくするために、土塁を完全に壊し、郭と堀を土砂で完全に埋め戻して、一枚の大きな水田として利用できるよう区画整理が行われました。

※調査区の壁面の土層観察から、土塁の盛土が残っている状態で造成土（川原石を多く含む土砂）で堀および郭部分を埋めていることがわかりました。これは、水田として利用するときに沈まないようにするための措置であったと推定されます。

貴生川遺跡遺跡変遷模式図

貴生川遺跡発掘調査現地説明会資料 No.2

平成26(2014)年8月3日(日)／甲賀市教育委員会
公益財団法人滋賀県文化財保護協会

調査の概要

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、甲賀市教育委員会からの依頼で土地区画整理事業に伴い、甲賀市水口町貴生川に所在する貴生川遺跡の発掘調査を平成25年度から実施しています。平成25年度調査では古墳時代中期（約1,600年前）の竪穴住居、平安時代末から鎌倉時代（約800年前）の掘立柱建物、土壙墓等を確認しました。

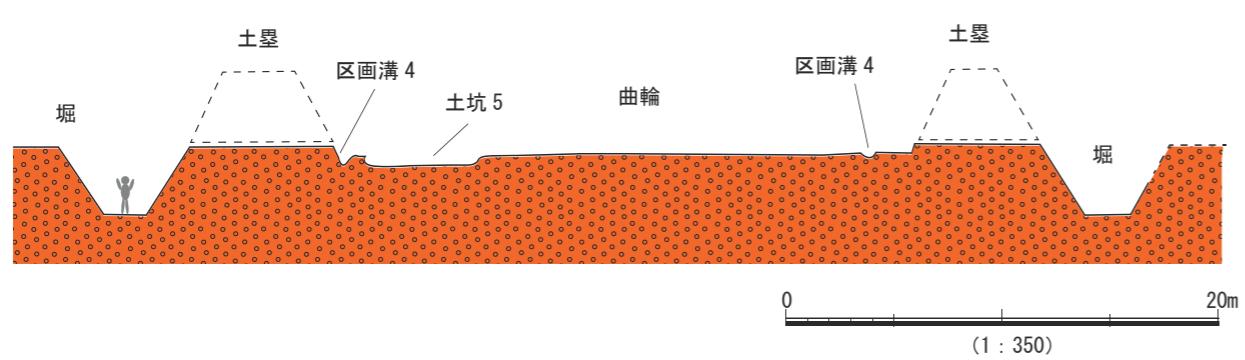
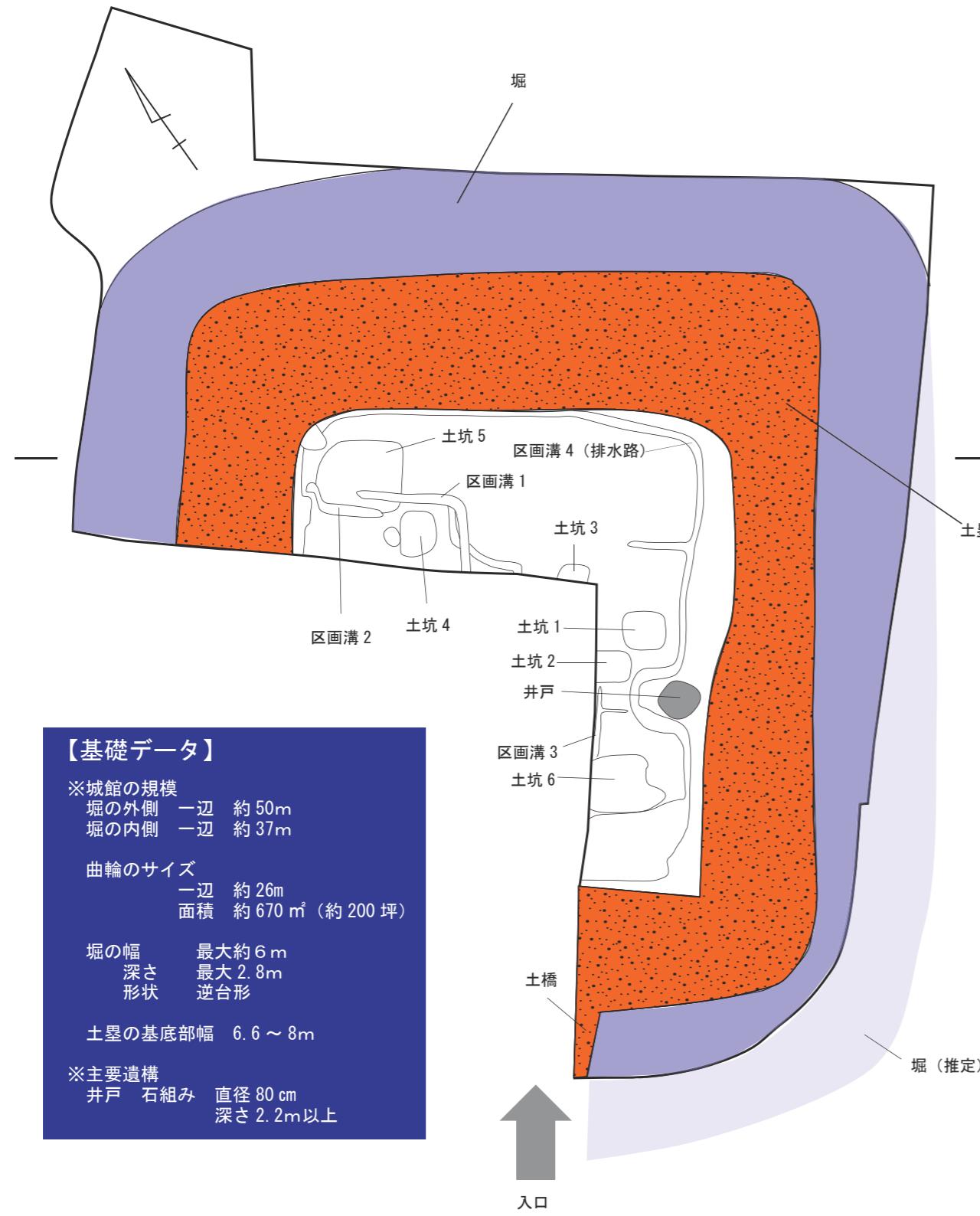
今年度は、その隣接地を調査してあるところですが、一辺半町（約50m）の「単郭方形」とよばれる堀と土塁で囲まれた、平面形が方形で単独で立地する戦国時代の城館跡がみつかりました。



【調査地全景（東より）】遠方に木曾川、飯道山を望む



0 20 km



主要遺構概略図



【堀の土層断面】深さは 2.8m を測ります。上部の礫層は最終段階の盛土であります。
【堀】逆台形の断面形を呈しています。土塁を復元するとこの堀底からおよそ 6m あります。とても登れそうにありません。



【井戸】直径約 2m の掘方を持ち、内径 80 cm の石組みの井戸です。中から五輪塔の一部（火輪）が見つかりています。



【堀の出土遺物】土橋の東側の堀の中でみつかった漆器の椀です。外面には黒地に赤漆で鶴の文様が描かれています。

調査の成果

今回の調査で、これまで明らかでなかった城館跡が良好な状態でみつかり、なおかつ全体の 3/5 を面的に調査することができました。180 をこえる城館が確認されている甲賀市域において、発掘調査が実施され、正確な存続年代、規模等が明らかになっている城館はほとんどなく、非常に貴重な発見であるといえます。さらに、遺存状態が良いことから土塁・堀の規模を視覚的に理解することができ、当時の地域内の緊張した時代の雰囲気を感じることができます。

また、出土した遺物の年代から 16 世紀後半に限定できます。このことから、この城館の築造、廃絶は、織田信長による近江侵攻（1568 年～）から羽柴秀吉に紀州雑賀攻めの責任を問われ甲賀衆が改易されたいわゆる「甲賀ゆれ」・「甲賀破儀」、水口岡山城の築城（1585 年）を契機とした甲賀地域の動向が映し出されている可能性が高いといえます。